住血吸虫症

子どもの健康増進のために

住血吸虫症は世界で最もまん延している寄生虫感染症のひとつです。

既存の標準治療薬は、主にサハラ以南のアフリカの学齢期の小児を対象に、集団投薬プログラムを通じて投与されています。

現在のところ、6歳以下（就学前）の子どもに適した治療法がありません。

住血吸虫症の疾病負荷

2.5億人

住血吸虫症の感染者数は世界で2億5,000万人と推定され、その内、約5,000万人が就学前の子どもたちです。現在も適切な治療を受けていません。[1]

140万-330万

障害調整生存年数(DALYS)*の負担／年

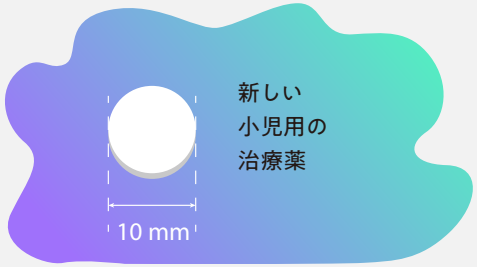
*疾病負荷を総合的に示す指標

健康への影響

子どもの住血吸虫症の潜在的な罹患リスクと長期的な影響

メディカル・ニーズ

住血吸虫症は、「生活の質を低下させる」という長期的な影響を伴い、子どもの健康的な発育の大きな課題となっています。



現在の標準的な治療が就学前の子どもに適さない要因

- 錠剤のサイズが大きい
- 味が苦い
- 粉砕が必要なため、投与量が不正確
- 幼少児における臨床データの欠如

小児用プラジカンテル・コンソーシアムは、就学前児童に適した新たな治療選択肢の開発を進めています。

この新たな治療選択肢は、高温多湿な熱帯地域においても安定性が高い錠剤です。この錠剤は水に溶かして投与され、幼い子どもでも飲みやすい味に改良されています。

PEDIATRIC PRAZIQUANTEL CONSORTIUM

EDCTP
This project is part of the EDCTP2 programme supported by the European Union

GHIT Fund
Global Health Innovative Technology Fund

本コンソーシアムはメルク社の財政的支援を受けており、パートナーからの現物支給、ビル&メリンダ・ゲイツ財団（2012年）、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）（2014年、2015年、2016年、2019年、2020年）、欧州・発展途上国臨床試験パートナーシップ（EDCTP）（2018年、2021年）からの助成金を受けています。

1 WHO の住血吸虫症ファクトシート、2023年2月1日。
https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/schistosomiasis